

第3回中山間地域振興協議会の主な意見等について（概要）

日時：平成26年5月22日(木)14:30～

場所：県庁北館2階 第1会議室

総論

- これまで様々な施策を実施してきたにも関わらず、人口減少は止まらないことから、今後は施策の重点化が必要ではないか。
- 地域が抱える課題は深刻であり、地域の価値や魅力を高めるだけでは解決困難であるため、県にはその点を踏まえた具体的な対策をお願いしたい。
- 地域の実情は異なるので、それぞれの地域に合った施策展開が必要ではないか。
- 間伐材活用の薪ストーブの補助金創設のように、地域資源を活かした新たな切り口による施策が必要ではないか。

施策の方向性

I 県民の自主的かつ主体的な地域づくりの促進

- ✓ 都市と中山間地域の関わりを意識した上で、子どもたちにも、中山間地域の価値や魅力を認識させる施策が必要。
- ✓ 地元の良い刺激を与えてくれる外からのリーダー的人材が重要。発掘支援をお願いする。
- ✓ 新たな産業を起こしていく観点から、コミュニティビジネスなどにも着目すべき。

II 産業の振興等による雇用機会の創出

- ✓ 離島は平地が少ないので、地域の実情に応じた柔軟な基盤整備を可能とする方が、新規就農者の業としての基盤が早く築けるのではないか。
- ✓ 経済が上向くなかで労働者は都会に流れ、中山間地域の中小企業等の人員不足は深刻。
- ✓ 民泊の規制緩和など、地域特性をどう活かすかという視点で新たな仕組みづくりに取り組んでいただきたい。
- ✓ 産業を担う人材の確保について、女性の力を活かした施策展開が必要。

III 日常生活を支える機能の確保等による定住の促進に必要な環境の整備

- ✓ インフラ整備が遅れているところはまだあるので、地域の実情を踏まえた対応が必要。
- ✓ スポーツ振興は、生活習慣病対策といった要素も加える必要があるのではないか。

IV 多様な主体の交流及び連携による地域づくり

- ✓ 人の交流、特に若者の交流を進めて行くことが大切である。
- ✓ 広域連携によるモデル事業を創設し、県はそのサポート役を担っていただきたい。
- ✓ 定住促進については、交流人口の増加を目指すようなところから取り組むべき。
- ✓ 地域の特性を活かしたモデル的な定住促進事業について、県の支援をお願いしたい。